

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社フィールズ

②施設・事業所情報

名称：相模原市立相模原保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：小下 聡子	定員（利用人数）：165名（155名）
所在地：〒252-0231 相模原市中央区相模原8-7-5	
TEL：042-753-2288	
ホームページ： https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp	
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：昭和44年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：相模原市	
職員数	常勤職員： 31名 非常勤職員： 31名
専門職員	（専門職の名称） 名 保育士：常勤28名 （非常勤20名） 調理員：3名（非常勤2名）
施設・設備の概要	（居室数）保育室：6室 トイレ：6 調理室：1 事務室：1 （設備等）園庭：1

③理念・基本方針

保育理念として「全園児を全職員で」を合言葉にしています。

- ・一人一人を大切に、尊重する保育をめざします
- ・安心できる環境の中で、のびのびと安心して過ごせる保育をめざします
- ・一人一人の要求に対し、柔軟に応じられる保育をめざします
- ・クラスの枠を取り除き、保育士全員で保育する姿勢をもちます
- ・その子にとって必要だと思った時、必要なだけ関わられるようにチームワークよく保育します

④施設・事業所の特徴的な取組

園の近隣には自然豊かな公園が多く、散歩コースに恵まれています。玄関には冬至を前にゆずが置かれグッピーが飼育されていました。子どもたちは春には桜を眺め、夏にはせみやとんぼを追いかけて、秋には落ち葉を踏みしめたり、どんぐりを拾って製作に生かしたり、さまざまな体験をしています。このような環境が子どもたちの豊かな感性をはぐくんでいます。さらに園では子どもの自主性と協調性を伸ばすことを大切にシオープン保育を実施しています。子どもの自主性と創造性を尊重し、一人ひとりの興味・関心に基づいて、主体的に活動できるようにすることを目的にしています。子ども達が好きな遊びを自分で選択し、十分に楽しめるよう職員間で連携して保育をしています。また、支援保育にも力を入れています。子どもの健やかな成長と発達を保障するため、相模原市が支援コーディネーターを配置し、支援に取り組んでいます。地域担当者（副園長が兼務）が中心となり、地域の子育て支援にも積極的に取り組んでいます。子どもの社会性を育む取り組みとして様々な人との交流にも力を入れています。コロナ禍で実施できない事業もありますが、オープン保育、異年齢交流をはじめ、近隣施設との交流、ポラ

ンティアや実習生の受け入れをしています。職員間の仲が良く、連携しながら全職員が全園児を見る体制ができています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和3年6月30日（契約日）～ 令和4年3月17日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2014年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

1)子どもの主体性を大切に育てています

異年齢活動と主体性を大切にした保育を実践しています。3～5歳児は「オープン保育」を実施し『子どもたちが自分でしたいこと』を意識して、遊びや生活を通じて主体性を育てています。職員は子どもがやりたいという気持ち、意欲に対してサポートをしています。異年齢の子どもと一緒に過ごすことによって、年下の子は年上の子どもを真似たり、憧れを持ち、年上の子は年下の子どもに遊びなどのルールを伝えたり、お世話をする姿がみられます。異年齢活動の1つに「お店やさんごっこ」があります。3、4、5歳児混合の縦割りグループを作り、グループごとに「何のお店にするか」「どんな品物作りをするか」など、子ども同士のやり取りやアイデアを大切に、保育士が仲立ちとなり進めています。オープン保育の中で、互いに関係を深めています。

2)楽しく食べることをモットーにした食育活動

食育年間計画を策定し月間指導計画や日案に反映し食育活動に取り組んでいます。保育士と調理員が食育会議を開催し、楽しい給食を目指しています。園庭やプランターでピーマンやなす・オクラ・菜の花などを育て、収穫した野菜はその都度給食室で調理してもらうことにより子どもの食べる意欲につながっています。調理員と一緒に、ラップおにぎりやクッキー作りなど、おやつを自分で仕上げ食べる取組や、子どもの目の前で調理をして食事を作る楽しさを伝えています。園内の食育コーナーでは、食育活動のドキュメンテーション掲示や給食サンプルの展示、子どもたちの好きなメニューを記載したカードをオーナメントにしたクリスマスツリーの展示、またレシピの紹介など、保護者にも食育への理解や興味を持てるようにしています。

3)市の長期計画に沿った単年度計画の策定

市の中・長期的な計画を踏まえた保育課の方針に沿って園は単年度計画を策定しています。前年度の事業結果を踏まえて、行事、環境、食育、保健衛生等のいろいろな視点から振り返り、次年度の計画に反映する仕組みになっています。単年度計画は四半期、月、週単位で具体的な内容に展開されており、毎回振り返りを行っています。特に年度末には実績の確認と評価を改めて行い、実行可能な次年度の計画を作成し取り組んでいます。単年度計画は行事計画のレベルではなく、評価可能な実行計画になっています。立案から、実行、振り返り、改善といった運営サイクルを強く意識し、年案から日誌まで一貫性のある保育を行っています。

◇改善を求められる点

1)保護者との良好な関係性の構築

園では以前から送迎時の保護者との会話を大切にしています。連絡帳や保育情報ボード

で毎日の活動についてお知らせしています。年1回の保護者アンケートなどで意見を伺うなど良好な関係構築に努めています。子どもたちの様子について可視化を進め、写真展示を多くし、制作物も保護者から見える廊下に展示するなどの取組は保護者からも好評です。しかしコロナ禍の状況において以前のように子どもの様子が見られず、保護者から不安の声もあります。今後はさらに保護者との連携を深めることが望まれます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

受審の年に園長が替わり、新年度になってから改めて受審に向け、スタートしたような形になりました。

内容評価基準は、主査を中心に準備を進めましたが、判断基準の各項目に着目していくことは、自分たちが今実際にしている保育の振り返りとなっていきました。項目を確認していくと、自分たちが普段思っているよりできている、と感じたところが多く、園や職員の自己肯定感につながりました。共通評価基準に関しても同様です。それと同時にまだまだできると思われる点や保護者の思いにさらに寄り添うべき点が明確となり、課題として認識することもできました。

第三者評価を受けた年以降の保育や運営が重要だと理解しています。来年度の保育目標や運営に結果を踏まえた課題を反映し、よりよい保育園を目指してきたいと思います。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり